1.
徳島LEDアートフェスティバル2016実行委員会 提供

12月16日18時、新町川をうめつくす球体に光が灯り、歓声とともに「徳島LEDアートフェスティバル2016」が開幕しました。水都とくしまを代表する新町川の景観に、徳島の資源であるLEDの「光」の要素を加えたこのイベントは2010年にスタートし、3年に一回開催してきました。

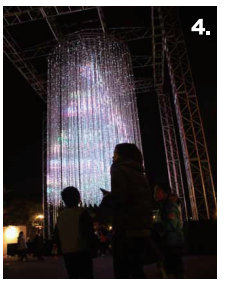
2.
徳島LEDアートフェスティバル2016実行委員会 提供

川が最高の舞台となって人々を魅了した 徳島LEDアートフェスティバル2016

3回目となる今回は、最先端のデジタルアートで国際的に活躍している「チームラボ」（猪子寿之 代表）の作品を中心に、一般公募のLEDアート作品など31点が展示されました。チームラボによるシンボルアート作品は「光る川と光る森」をテーマに3つ。新町川、藍場浜公園、徳島中央公園にそれぞれ展示されました。

徳島市出身で、新町川の近くで生まれ育ったという猪子寿之さんは、「市内に138もの川が流れ、しかも川と街がシームレス。また、城山には手つかずの広大な原生林が残っている。こんな街は世界でも珍しい。この川と森をそのまま使って、世界にないアートフェスティバルにしたいと考えた」と語りました。

3.


4.

1.『呼応する球体のゆらめく川』 **2.** 城山エリアの『城跡の山の呼応する森』。「城山を広大なアート空間とし、城山を光と音の巨大な楽器にした」と猪子さん
3. 色が変わるのが楽しくて、子ども達はいつまでも戯れていました
4. 藍場浜公園に浮かびあがる『リバーサイドクリスタルツリー』

世界各地で活動するなかで、ふるさとの素晴しさに気づくようになったという猪子さん。「川と市民が近く、川を愛している町。この町に生まれて良かったです」

作品に共通するのは、人が触れたり関わることで、音を響かせたり色が変化することです。新町川の球体は、触れると音が鳴り、色が変化します。そして、それが隣の球体に伝播していきます。あちこちで色が変化し、それがさざ波のように川を渡っていくさまは、まるで川が生きて呼吸しているようでした。

12月16日～25日の期間中は、作品観覧のためのクルージング、ガイドツアーをはじめ、連動してさまざまな参加・交流イベントが行われ、10日間で県内外から32万人が訪れました。徳島の冬を彩った光のイベント、次回の開催が楽しみですね。

なお、春日橋に新設されたアート作品は常設で一年中鑑賞することができます。

さまざまな角度から学べる まるごと吉野川『魅力再発見』講座

古くから吉野川との関わりによって育まれてきた文化・歴史・環境をテーマに、今年度も「まるごと吉野川 〝魅力再発見〟講座」を開催しました。

第1回講座

日時／6月18日(土)13時～16時
場所／徳島県JA会館 別館2階 大ホール
防災メモリアルイヤー6月点検テーマとして、
「土砂災害・水害」特別講演会を行いました。
「水害への備え～過去の災害から学ぶローテク防災術～」
講師：松尾裕治氏(香川大学防災教育センター特命教授)
「土砂災害の備え～昭和51年の台風17号による大規模土砂災害を教訓に～」
講師：豊桑 徹氏(徳島県砂防ボランティア協会事務局長)

第2回講座

日時／8月19日(金)9時30分～16時
「四国三郎・吉野川の水利用を学ぼう！」をテーマに、子ども達対象のバスツアーを行いました。旧吉野川河口堰管理所、今切川河口堰、吉野川北岸工業用水道浄水場、ハレルヤスイーツキッチンの各所で、水利用について学習しました。

第3回講座（↓P2・3）

第4回講座

日時／11月23日(水・祝)7時～17時
吉野川の源流域を訪れようというバスツアーはあっという間に定員46名の応募があり、関心の高さがうかがえました。残念ながら濃霧のため源流碑の見学は中止となり、後ろ髪を引かれながら帰ってきました。平成29年に再度ツアーを行うほか、源流トレッキングも計画中です。

藍住町から参加の福永貴彦君はダムカードのコレクター。早明浦ダムのカードをゲットしてゴキゲン♪

早明浦ダムにて記念撮影。「来年は源流碑に行くぞ～！」